「令和５年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立　富里小学校】

令和５年４月１８日（火）に、小学校第６学年全児童、中学校第３学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

１　児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

（１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm

２　本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算　数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

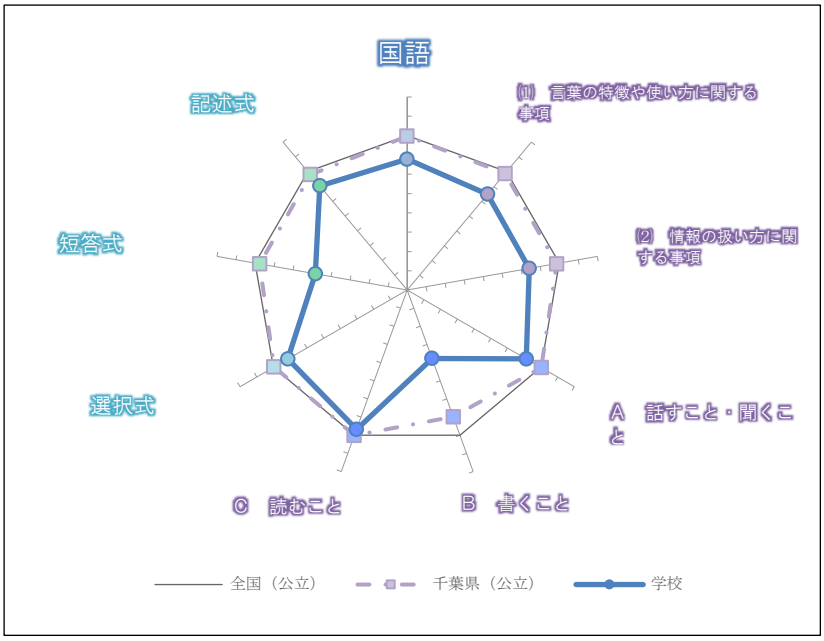
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○ 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。

○「A 話すこと・聞くこと」の領域では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるか、また目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られます。

○「C 読むこと」の領域では、正答率が全国平均とほぼ同じです。目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力は概ね身に付いていますが、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることには課題が見られます。

○「B 書くこと」の領域では、正答率が全国平均を大きく下回っています。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られます。

○「記述式」「短答式」「選択式」形式の正答率は共に全国平均を下回っています。特に、「短答式」形式で出題された学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られます。

【改善方策等】

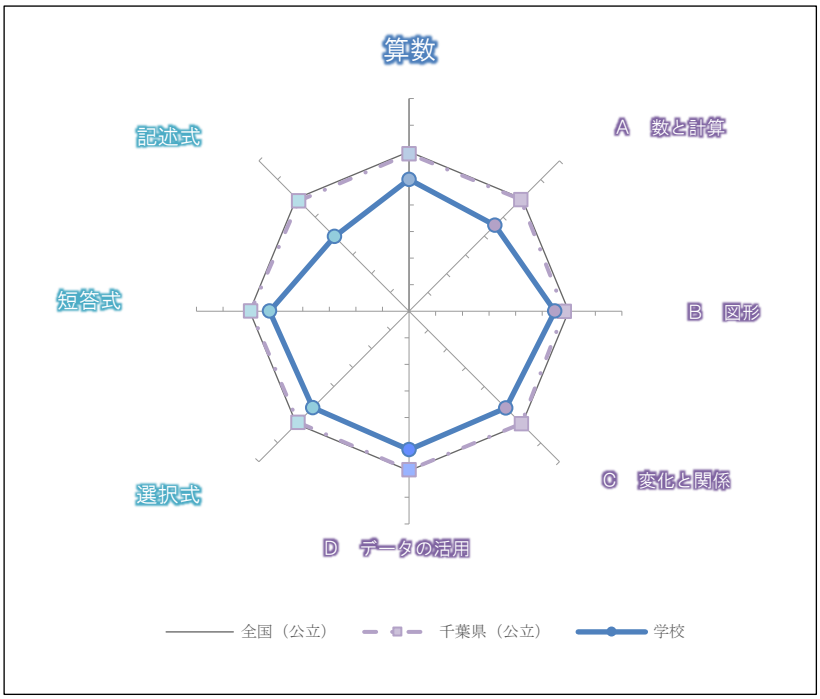
○ 漢字練習やドリル学習などを通して、漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導してまいります。

○「話すこと・聞くこと」については、国語科の学習だけでなく、他教科等においても適宜指導してまいります。具体的には、自分が伝えたいことが明確になるように構成を考えた話し方や、話し手の意図を理解するための聞き方を継続して指導してまいります。

○「読むこと」については、毎朝、読書の時間を確保しています。様々な事柄に興味関心が向くようにしたり、目的意識をもたせたりしながら、引き続き読書活動を推進してまいります。また、考えをノートにまとめたり、交流したりする活動も適宜取り入れてまいります。

○「書くこと」については、簡単な短文を「何文字以内」と条件で要約する練習や、定期的な作文練習、書いた文章を推敲するために、目的をもって書くことや、どのように書けばよいのか、推敲することのよさなど振り返りの時間を設けてまいります。各教科の授業においても、書くという場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。継続した指導を引き続き大切にし、教師による添削も行ってまいります。

算　数



【特徴と現状】

○ 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。

○「A 数と計算」の領域では、全国平均を大きく下回りました。特に、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること、また示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求め方と考え方を式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する力にも課題が見られます。

○「B 図形」の領域については、正答率が４５．７％と全国平均と比較してもほぼ同じ数値であることがわかります。特に台形や正方形の意味や性質について概ね理解できています。

○「C 変化と関係」の領域では、伴って変わる二つの数量が比例の関係があることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること、百分率で表された割合についての理解が不足していることがわかります。

○「D データの活用」の領域では、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見い出した違いを言葉と数を用いて記述することに課題が見られます。

○ 記述式の問題については、正答率が低い傾向にあります。

【改善方策等】

○ これからもドリル学習や『とみの国』検定の四則計算、百マス計算などを通して、基礎・基本的な問題が確実に理解できるように努めてまいります。

○ 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。国語科と同様に文章を読んで要点を正しく読み取る力を付けていきます。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。

○ 学んだことを振り返る活動を定着させ、理解をより確かなものとしてまいります。

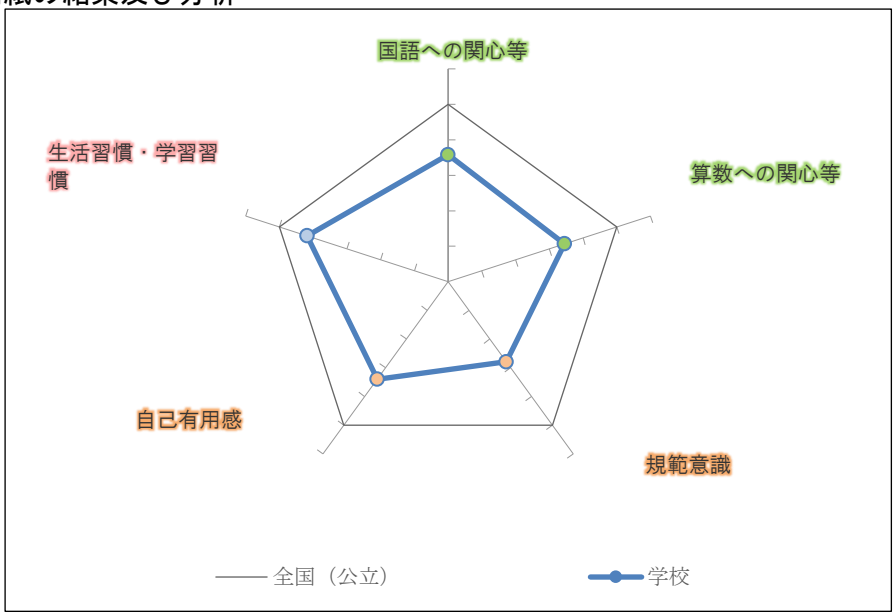
○「割合」を苦手とする要因として定義の用語の意味への理解不足が考えられます。日常の具体的場面に対応させ、確実に理解できるように引き続き支援してまいります。

○ 図や表を活用しながら、言語活動の充実を図ってまいります。

○ 様々な領域に課題がありますが、児童の理解を深めるために、タブレットや掲示物等の視覚資料を有効に活用し、指導の工夫・改善を継続して行ってまいります。

○「記述式」の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでまいります。

（３）児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

○「国語」「算数」ともに勉強が「好き」と回答している児童の割合は、全国平均を大幅に下回っています。しかし、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答している児童が多く、学びの必要性については強く感じていることが分かります。

○「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのは楽しい」と回答した児童の割合が比較的多いことから、仲間と共に粘り強く目標に向かって生活を送っている児童が多いことが分かります。

○「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、やや全国平均を下回っています。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童が全国平均を大きく下回っています。学習塾に通っている児童も多く、自分で学習の計画を立てる必要性がない、家庭学習の習慣化の未定着が窺えます。

３　まとめ

学校においては、今後も児童の実態把握、指導方法の改善に努め「わかる・できる授業を目指し、児童の学習意欲を高めてまいります。また、基礎的・基本的な学力が定着するように四則計算、百マス計算、視写、暗唱の指導、タブレットの有効活用に努めてまいります。自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。特に、「書く力」を付けるためには、相手や目的を明確にして児童自らが推敲する必要性を実感して書くことのできる言語活動を設定し、継続した指導を行ってまいります。

学校生活全般において、友達同士が互いを大切に思い、認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしてまいります。「あたりまえのことはあたりまえにできるようにしよう」このことを合い言葉に学校環境、学習環境を整えようと全学年で取り組んでいます。ご家庭でも、「家庭学習の習慣」や「早寝・早起き・朝ごはん」「学習道具の準備」など、規則正しい生活習慣が身に付けられるよう、引き続きご支援をお願いします。